

14:1 イスラエルの王エホアハズの子ヨアシュの第二年に、ユダの王ヨアシュの子アマツヤが王となった。

14:2 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はエホアダンといい、エルサレム出身であった。

14:3 彼は【主】の目にかなうことを行なった。ただし、彼の父祖ダビデのようではなく、すべて父ヨアシュが行ったとおりに行った。

14:4 すなわち、高き所は取り除かれなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。

14:5 王国が彼の手によって強くなると、彼は、自分の父である王を討った家来たちを打ち殺した。

14:6 しかし、その殺害者の子どもたちは殺さなかった。モーセの律法の書に記されているところに基づいてのことであった。【主】は其中でこう命じておられた。「父が子のゆえに殺されてはならない。子が父のゆえに殺されてはならない。人が殺されるのは、ただ自分の罪過のゆえでなければならない。」

14:7 アマツヤは塩の谷で一万人のエドム人を討って、セラを取り、その場所をヨクテエルと呼んだ。今日もそうである。

14:8 そのときアマツヤは、エフーの子エホアハズの子、イスラエルの王ヨアシュに使者を送って言った。「さあ、直接、対決しようではないか。」

14:9 イスラエルの王ヨアシュは、ユダの王アマツヤに人を遣わして言った。「レバノンのあざみが、レバノンの杉に人を遣わして、『あなたの娘を私の息子の妻にしてくれないか』

と言ったが、レバノンの野の獣が通り過ぎて、そのあざみを踏みにじった。

14:10 あなたはエドムを打ち破って、心が高ぶっている。誇ってもよいが、自分の家にとどまっていなさい。なぜ、あえてわざわざを引き起こし、あなたもユダもともに倒れようとするのか。」

14:11 しかし、アマツヤが聞き入れなかった。イスラエルの王ヨアシュは攻め上った。彼とユダの王アマツヤは、ユダのベテ・シメシュで直接、対決した。

14:12 ユダはイスラエルに打ち負かされ、それぞれ自分の天幕に逃げ帰った。

14:13 イスラエルの王ヨアシュは、アハズヤの子ヨアシュの子、ユダの王アマツヤをベテ・シメシュで捕らえ、エルサレムにやって来た。そして、エルサレムの城壁をエフライムの門から隅の門まで、四百キュビトにわたって打ち壊した。

14:14 彼は、【主】の宮と王宮の宝物倉にあったすべての金と銀、すべての器、および人質を取って、サマリアに帰った。

14:15 ヨアシュが行ったその他の事柄、その功績、ユダの王アマツヤと戦った戦績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

14:16 ヨアシュは先祖とともに眠りにつき、イスラエルの王たちとともにサマリアに葬られた。彼の子ヤロブアムが代わって王となった。

アマツヤの信仰は「主の目にかなう」ことを行いつつも、「高きところは」除かなかったというように、不完全な従順でした。かつては主にしたがって勝利を得ましたが、慢心してイスラエルに

戦いを挑み、敗れたのです。

勝利は常に主に従う者に与えられることを忘れないようにしましょう。過去は問題ではなく、今主のみこころを行うかどうかです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

